

## 第三者意見

今年初めての「CSR報告書」として、企業の社会的責任を正面から取り上げようとしています。経営理念を示し、経営者の声や思いを直接伝えていること、環境分野で詳細な情報開示に力を入れていること、売上の40%を占める海外へも取り組みと報告の範囲を広げようとしていることを評価します。

今後のさらなる向上のため、以下の提言をします。

CSRの定義は組織によってそれぞれです。「カシオはCSRをどのように捉えているか」をさらに自社に引き寄せて考え、基本的な姿勢を伝えて下さい。また、現在のお客様や取引先、従業員などにとどまらず、生態系や未来世代なども重要なステークホルダーです。

コミュニケーション面では、情報の網羅性が重視されていますが、ぜひ「わかりやすさ」にも力を入れて下さい。取り組みのプロセスや成果、課題、挑戦、失敗から学んだことなどをネガティブ情報も含めて出すことで、「人」が感じられる報告書になります。特に重大な課題をトピックスとして特集するなどメリハリをつける工夫もできるでしょう。環境会計やLCA分析では、数字の奥に何を見、その結果どうしようとしているのかを伝えて下さい。そうすることで、理念と行動とのつながりが見えてきます。さらに、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションを、CSRの取り組みを向上するためのPDCAの一環として位置づけて下さい。

市場に関しては、開発中の次世代製品がどのようにCSRや持続可能性と関わるのか、小型軽量化などによる環境効率の改善のみならず、持続可能な価値を創造するための新しいビジネスモデルをどう考えているかにもぜひ踏み込んで下さい。

環境面では、温室効果ガスに関する記述がわかりにくいこと、今後日本の排出量の80%削減が必要といわれる中で再生可能エネルギーなどの本質的な取り組みが十分に見えないことなどに改善の余地があります。

従業員および社会面では、従業員の安全性や次世代育成支援、人材開発、工場見学やKids ISOなどへの取り組みが評価できます。従業員や地域の生の声が伝わってくるともっとよくなります。一方、男女均等雇用については、管理職層の男女比や女性の登用に対する考え方、現状認識、取り組みなどの記述がないのが気になります。



今後、CSRを軸にさまざまな取り組みを向上させるとともに、「伝え、耳を傾ける」努力もぜひ重ねて下さい。期待しています。

Japan for Sustainability  
共同代表 枝廣淳子

## 監査役メッセージ……「CSR報告書」の創刊に思うこと

今回からの「CSR報告書」の発行により、従来の環境側面に関するステークホルダーとのコミュニケーション範囲から、より広範なマルチステークホルダー（多面的利害関係者）とのコミュニケーションの機会を得ることができ、カシオの持続的成長のための課題の抽出と、解決のための貴重な資産が得られることと期待しております。

同時に、マルチステークホルダーからの、CSRという幅広い側面を有するご意見ご質問に対する、的確な体制の強化充実が必要かつ重要と認識しております。

カシオのコーポレートガバナンスの確実な運営を遂行するために、

CSR経営を機軸とした内部統制体制の充実を図るべく、監査役としての役割職責を通し、社会と共存共栄できる企業造りに鋭意努力いたしたく、ステークホルダー各位のご支援とご協力を引き続きお願い申し上げます。



監査役 山田吉信

## 編集後記

今回の報告書は「CSR報告書」として、カシオグループのCSR活動全般について、市場、環境、人、社会の側面から、分かりやすさと網羅性を重視して編集しました。

また、昨年に引き続き、環境経営学会の三田会長と弊社社長、副社長との対談を掲載し、できるだけ経営者の声を通して、カシオの考えるCSR経営をお伝えすることに努めました。

さらに、昨年の「環境経営報告書を読む会」や「第三者メッセージ」、および「アンケート」で改善すべき点としてご指摘いただいた項目についても、可能な限り編集方針に取り入れ、対応させていただきました。

しかし、折角ご指摘いただきながらも、これまでに対応できなかった項目や、今回第三者の意見として、ジャパン・フォー・サステナビリティ

ティの枝廣淳子代表よりご指摘をいただきました点については、本年度の課題として取り組んでいきたいと考えています。

事務局としては、できるだけ多くの方より、忌憚のないご意見ご感想をいただき、カシオのCSR活動に反映していきたいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本報告書の制作にあたり、ご協力いただきました全ての方々へ心より御礼申し上げます。



CSR報告書 編集者一同